
コントでGO!

歌紅夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コントでGO！

【Nコード】

N2533BA

【作者名】

歌紅夜

【あらすじ】

ライダーとスーパー戦隊の力を結集してコントを開催！

アイムは黒い！？

マーベラスは寂しがりや！？

などなど。いろいろあるので楽しみに！！

初コントー♪アイム様は黒い人で女王様♪(前書き)

残酷な描写もあるかもしれませんが、ご注意ください。

初コント！～アイム様は黒い人で女王様～

いきなりで恐縮ですが、これからいろんな意味でコントが始まります。

ゴッカイガレオン！いつものとおり、鎖がたれてきてガレオンに乗る。

アイム「思ったのですが…。」

ルカ「何？」

アイム「ガレオンの鎖っていくつあるのでしょうか。人を何人殺せる位の鎖があるのでしょうか。」

ルカ「ちよつと待つて。今アイムさ、それ聞く前に何人その鎖を使つて殺したのかな？」

床に転がっているのは…。マーベラス・ジョー・ハカセ・鎧 e t c。とにかくガレオンの居住区には死体がたくさん転がっている。

アイム「いえ、目についたものでつい…。」

ルカ「これ以上被害者出すのやめようよお！」

アイム「分かりました。では最後にルカさんを…。」

ルカ「え！？無差別！？」

鎖を持ってルカの首を絞めた。

アイム「あ！み、皆さん大丈夫ですか！？」

被害者「（お前の記憶力が大丈夫か？）」

てな感じですよ。これからよろしくお願いします。

初コントー！アイム様は黒い人で女王様（後書き）

その後のアイム。

アイム「え？私が皆様の首を！？何がなんだか、分かりませんが、申し訳ございません！」

被害者「（分からないんだ）」

ルカは黒い人を止めるので大変 (前書き)

Let's go!

「ルカは黒い人を止めるので大変」

ルカ 「ねえ、アイム本当に覚えてないの？」

アイム 「ええ。全く。」

ルカとアイムはガレオンの鎖で皆の首を絞めたことを話していた。

アイム 「できれば…まだまだ絞めたりないのでもっと絞めたいのですが。」

結局覚えていた。手には血の付いた鎖。

ルカ 「本当にもうやめよう!!ね!」

アイム 「もう少し絞めたいので…。」

とマーベラスの首を再び絞めた。

マベ 「又オツ!やめろ、いい加減…ぶほっ!!」 血を吐いた。
限界が近い。

アイム 「分かりました。ではこれが最期です。おやすみなさい、マーベラスさん」

再び首を絞め始めた。

ルカ 「いい加減にしようよおお!!」

本日もルカは、アイルムの殺人行為にストップをかけるが、できなかった。

「ルカは黒い人を止めるので大変」（後書き）

その後のルカ。

ルカ 「マーベラス、大丈夫？」

マベ 「俺はいいが、ジョーたちが。」

アイム 「ジョーさんも寝ていてくださいね。」

ジョー 「やめろおお！」

ルカ 「これ以上やめて！！！」

く剣崎の言っていることが分からない。く（前書き）

L e t - - s T I N T - -

く 剣崎の言っていることが分からない。く

死体の中に、ライダーの死体もあった。剣崎真一だ。

アイム「剣崎さんもお休みになりますか？」（黒い笑み）

剣崎「断っておく。それよりアイム、お前仲間を……。一オンドウルラギッタノカ《本当に裏切ったのか》！？」

アイム「剣崎さん、今なんとおっしゃいましたか？」

剣崎「だから、一オンドウルラギッタノカ《本当に裏切ったのか》！？」

アイムはとうとうキレた。

アイム「剣崎さん、言っている事が全く分からないので、頭を冷やしましょう。」

マーベラスの首をさっきまで首を絞めていたが、アイムはそれを止め、飛び込み様のプールで嫌な行動に入ったアイム。鎖で剣崎を縛り上げ、10?の飛び込み台からこまの様に剣崎を投げた。

剣崎「本当に裏切られたオンドウルラギラレタ！」

と叫びながら落ちていった。

アイム「これで邪魔者は居なくなりました。さてもう少し……。締め遊びましょうか。」

と、地獄のショータイム。

マベ 「オンドウル語は意味不明だ。」

そんな風を感じたマーベラスたちだった。

く 剣崎の言っていることが分からない。く (後書き)

さっきの訳は、

「本当に裏切ったのか」
と

「本当に裏切られた」
です。

♪ ジョーはシド・バミック大好き娘(大好きっこ)♪ (前書き)

Let's GO!!!

「ジョーはシド・バミック大好き娘（大好きっこ）」

ジョーは自室で落ち込んでいた。

マベ 「ジョー、何かあったのか？」

ジョー 「シド先輩……。シド先輩……。」

マベ 「ジョー？」

ジョー 「シドセンパイアアイ!!」

マベ 「人の話を聞けっ！」

マーベラスはゴーカイサーベルをジョーに刺した。

ジョー 「……マーベラスか。」

マベ 「人の話は聞けっっの！」

何故こんな状態になったのか。彼から事情を聞いてみよう。

ジョー 「だつてさ、俺38話でバリゾーグ倒したシド先輩だろ？その日からシド先輩の夢ばかり……。」

マベ 「それ、単なるBLじゃねえか？」

ジョー 「B、BLじゃない。」

マベ 「いま、顔が赤かったが。」

ジョー「み、見間違いだ。」

くまとめく

ジョーはシド・バミックが好きすぎてしょうがない。

「ジョーはシド・バミック大好き娘（大好きっこ）」（後書き）

その後のジョー。

ジョー「シドセンパイアアイ！」

マベ「いい加減にしろ。」

「マーサはBLさんと居るだけで、悲しい気持ちになっているようです。」

Let's Talk...

「マーベラスはBLさんと居るだけで、悲しい気持ちになっているようです。」

あの日以来、ジヨーは

ジヨー「シドセンペアアイ！」

と、叫ぶようになった。そしてそれを受けて、マーベラスは落ち込むようになった。

マベ 「仲間にしちゃ駄目だったかな…。」

するとアイムがお茶を持ってきた。黒いわけではなく、普通のアイムである。

ルカ 「何落ち込んでんのよ！ジヨーは単なるBLでしょ？」

マベ 「でも、でもおお！」

もはや自滅。するとアイムが、

アイム「ジヨーさんを…締めましょうか？」

と、もはや黒アイムと化している。

ルカ 「ついでよ。マーベラスも締めて。」

アイム「分かりました。」

と、鎧のゴーカイスピアを投げた。

ジヨー「シドセンパアアア！」

マベ「ジヨーのバカアアア！」

マーベラスはしばらく立ち直れなかった。

「マーベラスはBLさんと居るだけで、悲しい気持ちになっているようです。」

その後のマーベラス。

ジョー「マーベラス、どうかしたのか？」

アイム「ジョーさん、あなたのせいですよ。」

ジョー「やめろ、やめてくれえええ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2533ba/>

コトでGO!

2012年1月6日17時49分発行